

平成29年度 徳島市立高等学校 学力向上実行プラン

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策								
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見									
3 学習指導の充実	①授業日数・授業時数の確保に努める。 ②わかりやすく、魅力ある授業に努める。 ③学習習慣の定着を図る。 ④補習への積極的な参加を促す。 ⑤校内実力テストを有効に活用するとともに、希望者受験の模試の積極的な受験を促す。 ⑥読書を薦める。 ⑦自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <td> ①授業時数を800時間以上確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ②授業満足度70%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。 ③家庭学習時間調査を定期考査前に実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し、定期的集めてコメントを記し、学習がうまくいっていない生徒に対しては、面談の中で助言や指導をして学習習慣の改善を図る。 ③自習室の活用を積極的に促し、利用者延べ人数2万人を目指す。 ④(1,2年)全員参加補習の皆勤者数100人以上を目指す。 ⑤希望者受験模試の受験者数(延べ人数)は次の人数を目標とする。 (1,2年) 300人以上 (3年) 1400人以上 ⑥(1年)夏期休業中の課題として読書感想文を全員提出する。 ⑥図書館便りを年7回以上発行する。 ⑥学校図書館の年間利用延べ人数5000人、一般貸出冊数1500冊を目指す。 ⑦新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。 ⑦各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。 </td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <td> ①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。 ②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方 </td> </tr> </table>	評価指標	①授業時数を800時間以上確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ②授業満足度70%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。 ③家庭学習時間調査を定期考査前に実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し、定期的集めてコメントを記し、学習がうまくいっていない生徒に対しては、面談の中で助言や指導をして学習習慣の改善を図る。 ③自習室の活用を積極的に促し、利用者延べ人数2万人を目指す。 ④(1,2年)全員参加補習の皆勤者数100人以上を目指す。 ⑤希望者受験模試の受験者数(延べ人数)は次の人数を目標とする。 (1,2年) 300人以上 (3年) 1400人以上 ⑥(1年)夏期休業中の課題として読書感想文を全員提出する。 ⑥図書館便りを年7回以上発行する。 ⑥学校図書館の年間利用延べ人数5000人、一般貸出冊数1500冊を目指す。 ⑦新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。 ⑦各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。	活動計画	①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。 ②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方	<table border="1"> <tr> <th>評価指標の達成度</th> <td> ①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数 今年度 812 ②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施 ②授業満足度は79.6%で昨年より2.5%上昇した。 ②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。 ③1年生36%,2年生30%程度であった。 ③手帳や計画表を活用し、適宜面談を通して助言や指導を行った。 ③17,182名(1/15現在)の利用者 ④1年121名,2年135名(2学期補習まで) ⑤1年310名,2年345名,3年1420名受験 ⑥読書感想文-全員提出(277名) ⑥10回発行(1/19現在) ⑥開館日数183日で、年間利用延べ人数5,953名、一般貸出冊数1,452冊。(1/19現在) ⑦新聞を読む習慣のない生徒の割合は44.4%で、昨年に比べ5.4%上昇した。 ⑦各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。 </td> </tr> <tr> <th>総合評価</th> <td> (評定) A' (所見) ①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、生徒の満足度も上がっている。 ③学習時間の確保の重要性は感じているものの、部活動との両立で時間の確保が難しい状況もうかがえる。手帳や学習計画をうまく活用できている生徒も少しずつ増えている。 ①早朝補習への積極的な取組が習慣化されてきた。 ②視野を広げるために積極的に模試を受験し復習を行う姿勢が見られた。 ③読書習慣の定着、開かれた学校図書館への取り組みは、堅実な成果を上げた。昨年度と比較して利用者数、貸出冊数とも増加した。 ④公民科の授業だけで </td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数 今年度 812 ②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施 ②授業満足度は79.6%で昨年より2.5%上昇した。 ②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。 ③1年生36%,2年生30%程度であった。 ③手帳や計画表を活用し、適宜面談を通して助言や指導を行った。 ③17,182名(1/15現在)の利用者 ④1年121名,2年135名(2学期補習まで) ⑤1年310名,2年345名,3年1420名受験 ⑥読書感想文-全員提出(277名) ⑥10回発行(1/19現在) ⑥開館日数183日で、年間利用延べ人数5,953名、一般貸出冊数1,452冊。(1/19現在) ⑦新聞を読む習慣のない生徒の割合は44.4%で、昨年に比べ5.4%上昇した。 ⑦各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。	総合評価	(評定) A' (所見) ①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、生徒の満足度も上がっている。 ③学習時間の確保の重要性は感じているものの、部活動との両立で時間の確保が難しい状況もうかがえる。手帳や学習計画をうまく活用できている生徒も少しずつ増えている。 ①早朝補習への積極的な取組が習慣化されてきた。 ②視野を広げるために積極的に模試を受験し復習を行う姿勢が見られた。 ③読書習慣の定着、開かれた学校図書館への取り組みは、堅実な成果を上げた。昨年度と比較して利用者数、貸出冊数とも増加した。 ④公民科の授業だけで	授業を受けることで興味・関心が深まったと回答している生徒の割合が多い。学習時間は、時間数の増加と共に、学習の質の向上を目指して行ってほしい。インターネットの発達により生徒の新聞離れが進んでいるので、対策を講じて行ってほしい。 ①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。 ②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実もはかりたい。授業参観や授業評価については、実施率が100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。また、アクティブラーニングやICT教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、新旧教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。 ③家庭学習の習慣の重要性をさらに自覚させ、隙間の時間を活用するよう、面談や学習記録を通して声かけを行うことが重要である。 ④補習の意義をHR担任・教科担任が生徒に理解させ出席を督促するとともに、補習内容についても常に改善・向上させていく必要がある。 ⑤希望者受験の模試は視野を広げるためにも有効であること等の意義を伝え、現状に満足することなく学力を向上させる意欲を引き出す声かけをしていく必要がある。 ⑥読書習慣の定着と図書館利用の促進を、引き続き
		評価指標	①授業時数を800時間以上確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ②授業満足度70%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。 ③家庭学習時間調査を定期考査前に実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③毎月の学習計画表と長期休暇中の学習計画表を配布し、定期的集めてコメントを記し、学習がうまくいっていない生徒に対しては、面談の中で助言や指導をして学習習慣の改善を図る。 ③自習室の活用を積極的に促し、利用者延べ人数2万人を目指す。 ④(1,2年)全員参加補習の皆勤者数100人以上を目指す。 ⑤希望者受験模試の受験者数(延べ人数)は次の人数を目標とする。 (1,2年) 300人以上 (3年) 1400人以上 ⑥(1年)夏期休業中の課題として読書感想文を全員提出する。 ⑥図書館便りを年7回以上発行する。 ⑥学校図書館の年間利用延べ人数5000人、一般貸出冊数1500冊を目指す。 ⑦新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。 ⑦各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。									
活動計画	①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。 ②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方											
評価指標の達成度	①ほぼ昨年並みの授業時数が確保できている。 2学期末までの授業時数 今年度 812 ②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2,3年 1回実施 ②授業満足度は79.6%で昨年より2.5%上昇した。 ②各学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。 ③1年生36%,2年生30%程度であった。 ③手帳や計画表を活用し、適宜面談を通して助言や指導を行った。 ③17,182名(1/15現在)の利用者 ④1年121名,2年135名(2学期補習まで) ⑤1年310名,2年345名,3年1420名受験 ⑥読書感想文-全員提出(277名) ⑥10回発行(1/19現在) ⑥開館日数183日で、年間利用延べ人数5,953名、一般貸出冊数1,452冊。(1/19現在) ⑦新聞を読む習慣のない生徒の割合は44.4%で、昨年に比べ5.4%上昇した。 ⑦各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。											
総合評価	(評定) A' (所見) ①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、生徒の満足度も上がっている。 ③学習時間の確保の重要性は感じているものの、部活動との両立で時間の確保が難しい状況もうかがえる。手帳や学習計画をうまく活用できている生徒も少しずつ増えている。 ①早朝補習への積極的な取組が習慣化されてきた。 ②視野を広げるために積極的に模試を受験し復習を行う姿勢が見られた。 ③読書習慣の定着、開かれた学校図書館への取り組みは、堅実な成果を上げた。昨年度と比較して利用者数、貸出冊数とも増加した。 ④公民科の授業だけで											

次年度への課題と今後の改善方策

	<p>・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p> <hr/> <p>③週間課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。</p> <p>③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間として学習習慣の定着を促進する。</p> <p>③集会・面談等において家庭学習時間の確保と重要性を指導し、学習記録に記すことで学習計画を立てる習慣をつける。</p> <p>③生徒が集中して学習に取り組める環境を確保する。</p> <hr/> <p>④担任による生徒への出席の督促と保護者の協力により欠席者を減らす。</p> <hr/> <p>⑤実力テストごとに出题検討委員会を開く。</p> <p>⑤各模試の目的・意義を伝える。</p> <p>⑤成績の分析を今後の学習指導に役立てる。</p> <hr/> <p>⑥夏期休業中の課題として、以下のものを提出させることで正確に読みの確に表現する力を向上させる。 (1年) 読書感想文・現代社会自由研究</p> <p>⑥図書館便りで新着図書や推薦図書の案内を行うとともに、各教科からも案内を行う。</p> <hr/> <p>⑦公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑦各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>技術について学んだ。</p> <p>② 1・2 学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしていく。</p> <hr/> <p>③週間課題・日々の課題で学習習慣を図ろうと取り組んでいる。</p> <p>③学習時間調査においては、普段より 30 分多く学習時間を取るよう声かけをしている。</p> <p>③あらゆる場面を通して、家庭学習時間の確保の重要性を伝えている。具体的な行動計画を立てさせることで、時間を有効に使えるよう声かけを行っている。</p> <p>③自習室開放を平日 8:30~19:00、休日 8:30~16:30 にほぼ年間を通じて実施している。12 月末で 258 日開放。</p> <hr/> <p>④電話連絡・三者面談等の機会を通じて補習への出席を督促している。</p> <hr/> <p>⑤教科・科目ごとに出题の意図、ねらいについて検討し、実施後の振り返りによる分析も行っている。</p> <p>⑤各 HR 担任が個人面談等を通して校内実力テスト・校外模試の目的・意義を伝え、学習意欲の高揚をはかるように指導している。</p> <p>⑤ 校内実力テスト・校外模試の結果は学年・教科で共有し、平素の指導に役立てている。</p> <hr/> <p>⑥読書感想文ー全員提出 (277 名) 現代社会自由研究ー全員提出 (277 名)</p> <p>⑥図書館では図書館便りで新着・推薦図書を案内するとともに、IRP の探求学習に関するコーナーを新設し、貸出冊数の増加に努めた。</p> <hr/> <p>⑦ 1 年生全クラス・3 年生文系クラスにおいて、新聞を使った発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p> <p>⑦ 1 学年模擬選挙、2 学年アクティブラーニングを交えた講演、3 年生は年金セミナーを実施し、社会参画の意義について考えた。</p>	<p>はなく、生徒会役員選挙や HR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、昨年より新聞を読む習慣のない者が増えているが、より深く読むようになった者が 5.2%、読む習慣がついた者が 34.6%いるので取り組みの成果は見られる。</p>	<p>図っていききたい。</p> <p>⑦新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞記事提供の意味合いが高まってきていると言えるので、今後も新聞を使った授業の展開を進め、社会に関心を持つ者の割合を増やしていきたい。</p>
--	---	--	--	--

平成29年度徳島市立高等学校 学力向上推進員・検討委員

<p>学力向上推進員</p>	<p>村澤 宏樹</p>	<p>学力向上検討委員</p>	<p>寺澤 康文・大野 真二・森河 丈志・平野 朋美・元村 俊彦・樽見 拓・赤澤 昌宏・鏡石 浩史・岩脇 達克・田上 洋子・高木 佐知子 富永 憲志・大久保 征・宮城 真人・遠藤 剛史</p>
----------------	--------------	-----------------	--